GMOINTERNET GROUP

GMO インターネットグループ株式会社

2022 年 12 月期 第 3 四半期 決算発表・説明会

2022年11月14日

イベント概要

[企業名] GMO インターネットグループ株式会社

「**企業 ID** 9449

[**イベント言語**] JPN

[イベント種類] 決算説明会

[イベント名] 2022 年 12 月期 第 3 四半期 決算発表・説明会

[決算期] 2022 年度 第 3 四半期

[日程] 2022年11月14日

[ページ数] 37

[時間] 15:30 - 16:03

(合計:33分、登壇:33分)

[開催場所] インターネット配信

[会場面積]

[出席人数]

[登壇者] 2 名

取締役 グループ副社長執行役員・CFO グループ代表補佐

安田 昌史(以下、安田)

グループ執行役員 グループ財務部長 稲垣 法子(以下、稲垣)

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375

フリーダイアル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



登壇

司会:皆様、こんにちは。本日はお忙しい中、GMO インターネットグループ、第 3 四半期決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

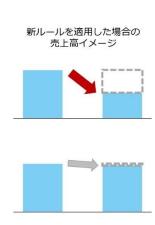
本日の説明会の出席者についてご案内いたします。本四半期の説明会では、グループ副社長、 CFO、安田昌史、グループ執行役員、財務部長、稲垣法子が出席しております。

本日は、決算概要についてご説明した後に、質疑応答を行います。

売上高計上ルール変更|影響

売上高

- 広告・メディア広告代理における広告枠仕入額の純額処理などにより、見かけ上大きく減少
- ・インフラ 契約時一括処理から契約期間に応じた期間按分処理、EC支 援での純額処理などあるも、影響は限定的
- 金融·暗号資産・インキュベーション:影響なし



利益:軽微

※「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)

GMO

プレゼンテーションの前に、計上ルールの変更についてご説明いたします。

今年度から収益認識に関する会計基準を適用しており、売上高の計上ルールが変更となっております。本資料では、ルール変更前の数字を旧基準、適用後を新基準と表示しております。売上高、営業利益についての考え方はこちらに記載のとおりです。

米国

売上高計上ルール変更|前年比較方法

影響のある部門(連結、インフラ、広告・メディア)

▶ 前年同期比(旧·旧) により、事業の実態を表現

(前年同期比(旧・新) はAppendixに記載)

影響のない部門(金融、暗号資産)

▶ 前年同期比(旧·新)

※「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)

GMO

3

さて、前年同期の比較についてですが、影響のある部門、すなわち連結、インフラ、広告・メディアについては旧基準という同じ物差しで比べることで、事業の実態を正しくお伝えいたします。なお、旧基準・新基準の比較については、アペンディクスにてご覧いただけます。また、影響の軽微な部門については、旧基準・新基準について比較計算しております。それでは、CFOの安田より、ご説明いたします。

安田: GMO インターネットグループ CFO の安田でございます。本日は、2022 年 12 月期第 3 四半期決算説明会にご参加いただき、ありがとうございます。どうぞよろしくお願いいたします。

当社は、12月決算ですので、7-9月の決算についてご説明いたします。本日のアジェンダは、ご覧のとおりとなっております。

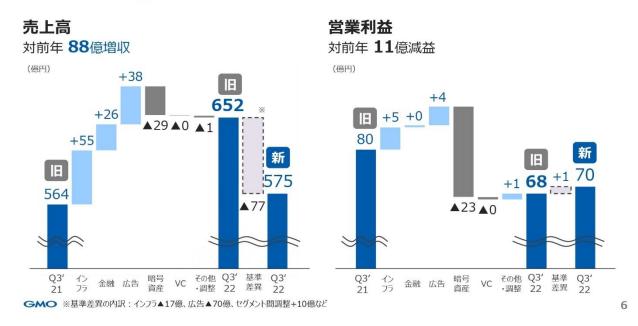
結論と要約 | Q3 (7-9月) 決算サマリー

		新	[H]	前年同期比(旧·旧)		
(億円)	Q3'21	Q3'22	Q3'22	増減額	増減率	
_	(7-9月)	(7-9月)	(7-9月)			
売上高	564	575	652	+88	+15.6%	
営業利益	80	70	68	▲11	▲14.0 %	
経常利益	86	89	87	+1	+2.1%	
最終利益 GMO	35	▲16	▲18	▲ 54	-	

まずは、決算サマリーです。

中央の青でハイライトしております旧基準ベースの数値は、売上 652 億円、営業利益 68 億円、経 常利益 87 億円。最終利益については、G MO あおぞらネット銀行株式に対する特別損失の計上が ありまして、18 億円の純損失となりました。

結論と要約 | Q3 (7-9月) YoY増減分析



続いて、セグメントごとの売上利益の増減分析です。

サポート

日本 050-5212-7790 米国

1-800-674-8375

フリーダイアル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



左が売上、右が営業利益です。

基準変更の影響も含めて記載しています。まずは、売上はインフラ、金融、広告・メディアがプラス、暗号資産の反動減があったものの、旧基準では88億円の増収となる652億円。ここから基準変更の影響によるマイナスがあり、新基準では575億円となりました。

次に、営業利益については、インフラ、広告・メディアについては、増収に伴う利益拡大となりました。一方、金融は FX 事業の収益率の低下が響き、横ばい。さらに、暗号資産の反動減があり、旧基準では 11 億円の減益となる 68 億円。新基準でもほぼ同水準となりました。

結論と要約 Q3(7-9月)決算サマリー						同期比	(旧 評	20000
インフラ	売上 営業 利益	398 億 45 億	(YoY+ 16.0 %) (同+ 14.0 %)	圧倒的No.1サービスの集合体 のれん・戦略投資をこなしつつ2桁成長	00	→	©	0
広告・ メディア	売上 営業 利益	159 億 7 億	(同+ 32.0 %) (同+ 189 %)	V字回復トレンド継続 売上高は前四半期に続き過去最高	00	→	0	0
金融	売上 営業 利益	100 億 26 億	(同+ 35.4 %) (同+ 2.1 %)	FX:円安一方向で収益性が課題 CFD:取引高・収益ともに好調継続 外貨ex byGMOの連結もあり伸長	× 0 0	→	0	0
暗号資産	売上 営業 利益	7 億 ▲ 8 億	(同 ▲78.9 %) (前年は 14 億)	口座数・取引シェアは堅調 マーケットは引き続き低調	O ×	→	Δ	Δ
GMO								7

続いて、各セグメントのサマリーです。

右端にマネジメントによる定性評価をつけております。各事業に対する評価は、第2四半期からおおむね変わっておりません。まずインフラですが、こちらは二重丸。圧倒的 No.1 サービスの集合体、岩盤ストック収益のビジネスモデルという強みにより、業績拡大が続いております。売上は、セキュリティ事業の伸長、アクセス事業の復調もあり、再び2桁後半の伸びに戻ってきており、のれんの償却負担・戦略投資をこなしつつ、増収・増益となりました。

次の広告・メディアは二重丸。V字回復トレンドが継続しております。自社メディアが好調に推移していることに加え、経済活動の再開を受け、ネット広告も好調に推移し、増収・増益となりました。特に売上については、通常 1-3 月期が繁忙期となりますが、その後、2 四半期連続して四半期最高を更新しております。

そして、金融は丸。FX は厳しい状況が続いております。取引高は第2四半期に続き、過去最高を 更新したものの、ドル円相場が円安一方向の相場となり、収益性が課題となり、バツ。一方、CFD については、コモディティや株価指数の活況を受け、好調に推移しておりまして丸。外貨 ex byGMO のグループジョインもあり、増収・増益となりました。

そして、暗号資産ですが、こちらは三角。活況に推移した前年からは一転し、減収・減益となりま した。GMO コインで展開する交換事業は口座数、取引シェアは堅調に推移しています。その一 方、マーケット環境は厳しく、取引高も業界全般的に低調に推移しました。また、マイニング事業 も稼働率の低下が続いております。厳しいコンディションが続いておりますが、暗号資産市場が今 なおポテンシャルある領域であるという見方は変えておりません。しかるべきときにしっかり利益 を出せるよう、淡々と体制を構築してまいります。

結論と要約 Q3累計(1-9月)決算サマリー							
	旧	新	旧	前年同期比(旧·旧)			
(億円)	Q3'21	Q3'22	Q3'22	増減額	増減率		
(18月)	(1-9月)	(1-9月)	(1-9月)	垣/似街	垣/ (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4)		
売上高	1,769	1,831	2,067	+297	+16.8% 最高		
営業利益	306	380	378	+72	+23.6% 最高業績		
経常利益	322	424	422	+100	+31.3% 最高業績		
最終利益	133	138	137	+4	+3.1% 最高 業績		
GMO					8		

こちらは、1月から9月、累計の数字となります。

第2四半期のインキュベーション事業の貢献もあり、売上から最終利益まで最高業績を更新してお ります。

結論と要約 | 株主還元 (方針)



GMO

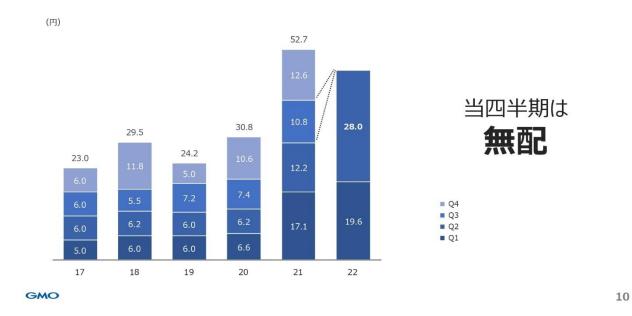
続いて、株主還元についてになります。

基本方針は、総還元性向 50%となります。このうち配当に 33%以上、残りの 17%を自己株式の取得に充てるというものです。

当社は四半期配当制度を採用しておりますので、四半期ベースでお支払いする配当金額は、赤字の場合には無配となりますが、通期の利益ベースで、きちんと 33%以上の配当と、17%以上の自己株式取得を実施するルールとさせていただいております。

なお自己株式取得につきましても、その年度で取得し切れなかった場合には、翌年度に繰り越して 取得する方針となっております。

結論と要約|株主還元 (1株あたり配当金)



そして、こちらは1株当たりの配当金の推移です。

今期も業績予想を非開示とさせていただくことから、配当金についても四半期ごとの発表となります。

当第3四半期については、四半期純損失となったことから、大変申し訳ありませんが、無配とさせていただきます。なお、1月から9月の累計では、前年を上回る水準となっておりますので、通期配当では増配を目指すべく、4Qも努力してまいりたいと思います。

強み

GMO 11

さて、四半期業績の詳細に入る前に、改めて当社グループの強みについて、ご説明させていただき ます。

大きく二つとなります。

強み(1)

自社開発・運用

GMO 12

強みの一つ目ですが、自社開発・自社運用へのこだわりです。

サポート

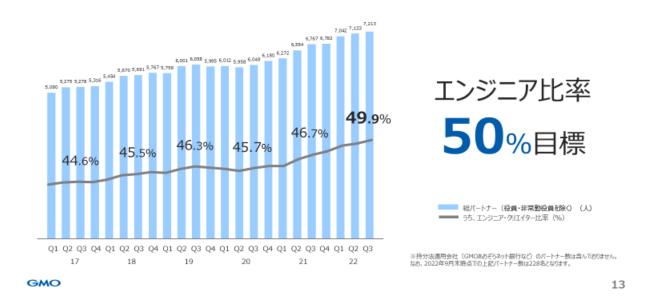
日本 050-5212-7790 米国

1-800-674-8375

フリーダイアル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



強み①自社開発・運用



インターネットという変化の速い市場で生き残るため、No.1 サービスを提供するためには、自ら作って自ら運用する、ものづくりの会社でなければならないと考えております。そのため、エンジニア、クリエイターという、技術力を持ったつくる人が重要となります。

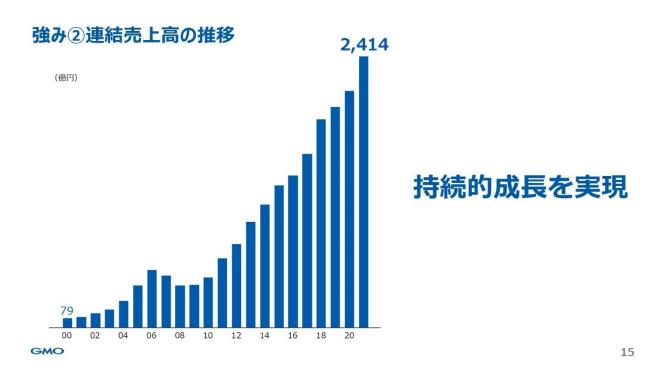
私どもは、従業員・スタッフのことをパートナーと呼んでおりますが、9月末のパートナー数は7,213人。このうち、つくる人の比率は49.9%です。グループ代表の熊谷が、つくる人比率50%を初めて目標設定したのは2011年のことでした。2014年2月に、初めてこの比率を投資家の皆様にお示しした際、当時の値は37.1%でした。足かけ10年となりますが、目標値である50%にあとわずかという状況まで迫ってまいりました。今後も、ものづくりの会社として成長を続けてまいりたいと思います。

強み2

岩盤ストック収益

GMO 14

続いて、強みの二つ目。前回の説明会でもお話しいたしました、岩盤ストック収益という収益モデ ルです。



こちらは連結売上の推移です。ご覧のとおり、創業以来、持続的成長を実現してまいりました。前 年末で13期連続の増収となっております。

サポート

日本 050-5212-7790 1-800-674-8375

米国 フリーダイアル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



強み②岩盤ストック収益とは

無くならない、無くてはならない

かつ

継続課金の商材

GMO 16

なぜ、持続的成長を実現することができたのか。

それは、私たちが創業以来、岩盤ストック益を積み上げてきたからだと考えております。この岩盤 ストック収益は GMO 用語です。では、単なるストック収益の収益モデルや、流行り言葉にもなっ ておりますサブスクと何が違うのでしょうか。それは、インターネットが続く限り無くならない、 無くてはならない、かつ継続課金の商材からもたらされるストック収益だということです。熊谷が 創業以来、目指してきた事業構造でもあります。

さて、GMO はインフラの会社と考えられている投資家の皆様が多いかもしれません。確かにその 通りだと思います。では、なぜ私たち GMO インターネットグループはインフラ事業を行っている のか。それは、無くならない、無くてはならない、そして継続課金の商材は何かという問いが最初 にあり、その問いに対する答えがインフラ商材の数々であり、そこからもたらされる収益が岩盤ス トック収益なのです。

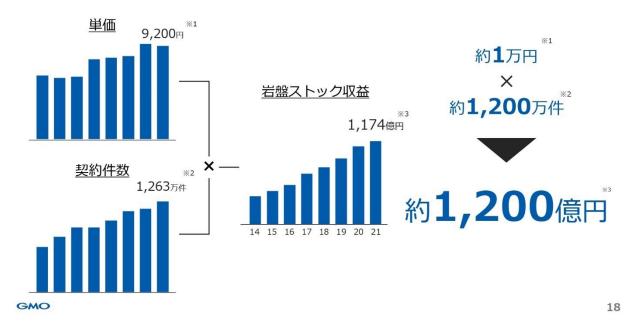
強み②連結売上高の分析



こちらは、売上を岩盤ストック収益とそれ以外に分解したものです。

赤線は、売上に占める岩盤ストック収益の比率になります。岩盤ストック収益には、インフラ事業における継続課金型収益と、継続課金に近い岩盤収益基盤を持つトランザクション型収益を含めています。ご覧のとおり、岩盤ストック収益こそがわれわれの持続的成長を支えております。

強み②岩盤ストック収益の分析



サポート

日本 050-5212-7790

米国

1-800-674-8375

フリーダイアル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



そして、こちらは岩盤ストック収益を単価と件数に割り戻したものです。単価、件数ともに拡大傾向にありまして、足元の1,174億円という岩盤ストック収益は、年間の単価約1万円掛けることの約1,200万件の契約件数から生み出されていることになります。

そして、契約件数は、足元でも毎日1万件の新規のお申し込みをいただいております。解約もありますので、純増ベースではもっと小さくなりますが、インターネット上の情報量、トランザクション量が拡大するにつれ、今後も拡大していくものと考えております。



岩盤収益基盤 **1,293**万件

19

こちらは、インフラの契約件数の状況です。

岩盤ストック収益を支える岩盤収益基盤と言い換えることができます。そして、9月末で1,293万件となっております。過去の年度末の数字をご覧いただいても、およそ年間100万件ベースで増加をしております。これに先ほどの単価1万円を掛けますと、年間100億円の売上が積み上がっていく計算となります。

米国

ソーシャルの反応





さて、このお話の最後に、岩盤ストック収益の前回の開示に対するソーシャルの反応もご紹介した いと思います。

ご覧のとおりとなっておりますので、ご確認いただければと思います。

続いてのパート、グループ概況からは、グループ執行役員財務部長の稲垣より、お話をさせていた だきます。

稲垣:GMO インターネットグループ、グループ執行役員、財務部長の稲垣です。よろしくお願い いたします。

フリーダイアル

0120-966-744

米国

グループ概況 | 事業領域



岩盤収益基盤 + 金融顧客基盤

1,538万顧客

対前年 **141**万件増

※売上比率はセグメント間取引消去前の数値で算出。インフラ、金融、暗号資産事業の契約数を実数で集計。インターネット金融事業の口座数にGMOあおぞらネット銀行の口座は含みません (旧歴業ではインフラ54.4%、広告・メディア21.5%、金融14.7%、暗号資産1.9%、インキュペーション6.3%)

22

当社の事業領域を俯瞰した図になります。

領域の大きさは売上構成比を示しています。岩盤収益基盤としてのインフラの契約件数、そして FX、証券、暗号資産の口座数を合わせた顧客基盤は 1.538 万件となっております。

グループ、概況 | 上場グループ、10社 時価総額・持分相当額

コード	銘柄名	市場	時価総額 ^{※1} (億円)	持分比率 ※2	持分相当額 (億円)
9449	GMOインターネットグループ	プライム	2,909		
3769	GMOペイメントゲートウェイ	プライム	9,049	40.7%	3,684
7177	GMOフィナンシャルHD	スタンダード	666	65.3%	434
3788	GMOグローバルサイン・HD	プライム	548	51.8%	284
4051	GMOフィナンシャルゲート	グロース	591	23.5% **3	138
3633	GMOペパボ	プライム	115	59.5%	68
4784	GMOアドパートナーズ	スタンダード	74	57.6%	42
3695	GMOリサーチ	グロース	62	54.8%	34
6180	GMOメディア	グロース	31	66.4%	20
6026	GMO TECH	グロース	18	54.1%	9
	グループ10社合計	4,719億円			

※1:時価総額は11/11時点 ※2:持分比率は9月末時点の間接保有分を含む値 ※3:GMO-PGを通じた間接保有分 ※4:単純合算

GMO 23

グループ上場 10 社の時価総額と当社の持分相当額となります。

サポート

日本 050-5

050-5212-7790

米国

1-800-674-8375

フリーダイアル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

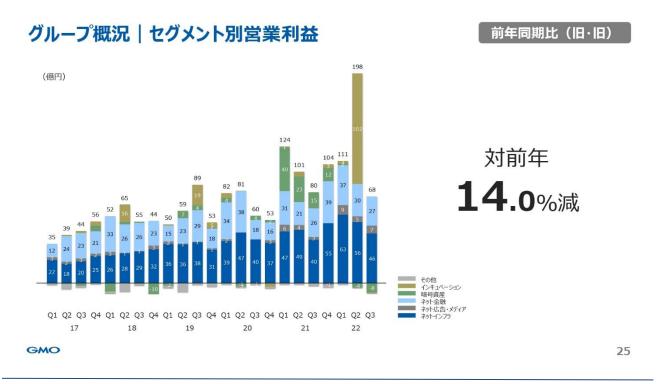


グループ時価総額の合計は、約1.4兆円。そして、当社の持分相当額は5,000億円に迫っております。



続きまして、セグメント別の四半期売上高の推移となります。

先ほど安田からもありましたとおり、一番下、濃いブルーのインフラを中心とした成長トレンドが 継続しております。



サポート

日本 050-5212-7790

90 米国

1-800-674-8375

フリーダイアル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



続いて、セグメント別の四半期営業利益の推移です。

短期的に見ると、暗号資産の反動減などがあるものの、インフラの岩盤ストック収益をベースとした持続的成長という見方は、全く変わっておりません。

ネットインフラ No.1サービスの集合体



続いて、インフラ事業です。

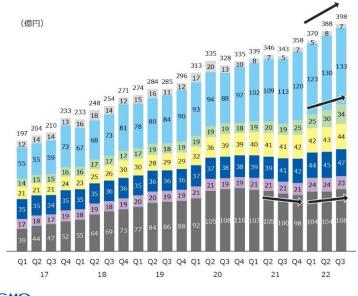
こちらはインフラ事業の事業内容です。

ドメイン、クラウド・ホスティング、EC プラットフォーム、SSL サーバー証明書、電子印鑑、サイバーセキュリティ、決済、アクセスと、No.1 サービスの集合体です。いずれも、インターネット社会にとって無くてはならない、無くならないサービスです。

米国

ネットインフラーセグメント別売上高

前年同期比(旧·旧)



対前年 **16.0**%増



※セグメント編成変更に伴い、ドメイン事業及びセキュリティ事業の数値を17Q1以降遡及修正

GMO

28

こちらは旧基準ベースの四半期売上高の推移とその内訳です。

セグメント全体の増収率が16%と、再び加速してきております。変わらず好調なのは、水色の決済事業です。キャッシュレス比率、EC 化比率もまだまだ伸びしろがあり、事業環境は良好でございます。そして、トップラインの加速に貢献しているのは、グリーンのセキュリティ事業です。SSLセキュリティの有効期限の変更による影響が一巡し、再び高成長に戻ってきております。

また、前四半期からグループジョインしました GMO サイバーセキュリティ by イエラエも、稼働率の上昇に伴い収益が拡大しております。

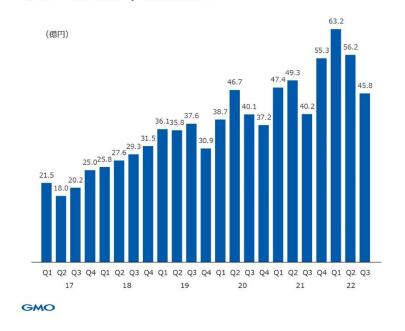
一番下の売上構成比の大きいグレーのアクセスも前年同期でプラスに転じております。要因は二つ ございます。固定回線が、テレワークや遠隔授業の定着を受けまして、着実に積み上がっているこ と。そして、大手キャリアによる低価格プランの台頭により、モバイル回線は弱含みで推移してお りましたが、商品の見直しが効果として表れてきております。

今後も、当社の強みである岩盤ストック収益の積み上がりにご期待ください。



ネットインフラー営業利益

前年同期比(旧·旧)



対前年 **14.0**%増

29

四半期営業利益の推移です。

投資育成中の事業の収益化が進むなど、各事業が利益拡大フェーズに入っております。イエラエの連結開始によるのれんの償却負担、GMOサインでの戦略投資をこなしつつ、2桁増益となっております。

この第3四半期は、GMOペイメントゲートウェイが本決算ということもあります。業績連動賞与の計上があり、第2四半期との比較では減益となっております。また、累計で見ると、利益が好調に推移しておりますので、第4四半期には一定程度の投資も予定しております。

ネットインフラー暗号セキュリティ



電子印鑑なら

契約社数 国内No.1 送信件数 国内No.1

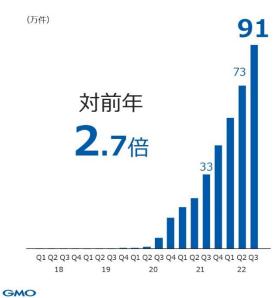
GMO 30

さて、戦略事業としてグループを挙げて展開しております、暗号セキュリティ、GMO サインで事業進捗がありましたので、ご報告させていただきます。

これまで契約者数で No.1 となっておりましたが、送信件数でも No.1 となりました。

ネットインフラー電子印鑑 契約社数







まず、契約者数の状況です。

サポート

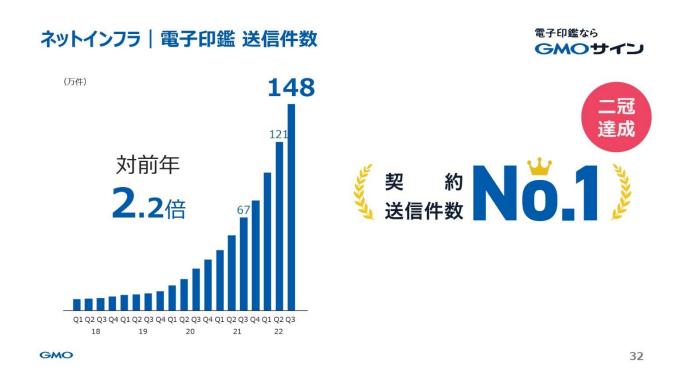
日本 050-5212-7790 米国

1-800-674-8375

フリーダイアル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



2020年6月にコロナ禍において、グループを挙げて取り組んださよなら印鑑キャンペーン以降 も、いわゆるネットワーク効果、グループシナジーによる顧客基盤の拡大が続いておりまして、9月末では、対前年2.7倍となる91万件となっております。ご覧のとおり、大手企業様への導入も順調に進んでおります。



次に送信件数です。

送信件数は、お客様のアクティビティの高さを示す最重要 KPI と捉えております。ご覧のとおり、 こちらも国内 No.1 となり、契約者数と合わせて 2 冠達成となりました。

ネットインフラ | デジタルガバメント















全国24の 公共団体へ 導入が決定









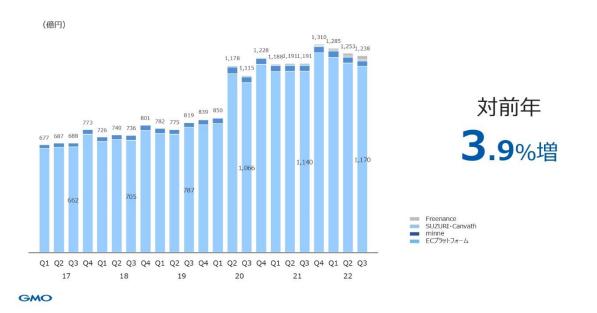


GMO

33

GMO サインについては、デジタルガバメントへの取組みも強化しております。11 月には、福岡市 の導入も決定いたしました。引き続き、自治体様への導入についても積極的に推進し、さらなる成 長へと続けます。

ネットインフラ | EC支援事業 流通額



最後に EC 支援事業全体の流通額の推移です。

サポート

日本 050-5212-7790

米国

1-800-674-8375

フリーダイアル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



カラーミーショップ、メイクショップで展開する EC プラットフォームと、minne、SUZURI、Freenance といったサービスから構成されております。物販 EC では、巣ごもり消費の反動減が業界全体で見られましたが、当社グループは、高価格帯のメイクショップを中心に、堅調に推移いたしました。

この流通額のうち、約 40%については GMO ペイメントゲートウェイの決済をご利用いただいております。クレジットカードなどの決済代行サービスを介して流通する金額のほとんどは、グループサービスをご利用いただいており、EC プラットフォームと決済事業の強いシナジーを示す値だと考えております。



前年同期比(旧·旧)



対前年 **32.0**%増

■ インターネットリサーチ・その他■ インターネットメディア■ インターネット広告

36

続いて、広告メディア事業です。

旧基準ベースの四半期売上高の推移とその内訳です。

通常、1月から3月期が繁忙期となりますが、この四半期も四半期最高を更新いたしました。経済活動の再開を受け、広告代理が好調に推移したことに加え、アフィリエイトも好調なトレンドが続いております。

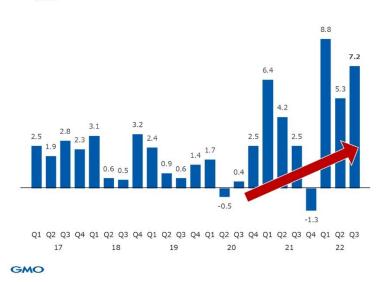
また、メディアも、自社メディアの PV 数が引き続き堅調に推移いたしました。

米国

ネット広告・メディア | 営業利益

前年同期比(旧·旧)

(億円)



対前年 **189**%增

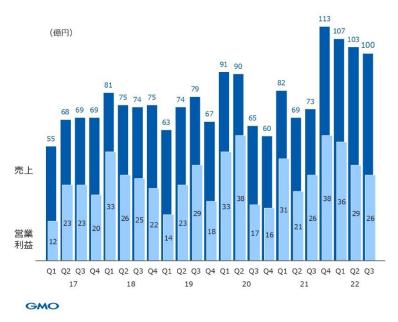
37

こちらは四半期営業利益の推移です。

ご覧のとおり、一昨年をボトムに回復基調が続いております。自社メディア、リサーチプラットフォームなどの、利益率の高い自社商材が拡大するというトレンドが続いております。

上場グループ各社が業績の上方修正を行っているとおり、期初計画を上回って好調に推移しております。第4四半期では各社、自社商材、自社メディア強化への投資を実行してまいります。

ネット金融|四半期業績推移



前年同期比(旧·新)

対前年

35.4%增収

2.1%增益

39

サポート

日本 050-5212-7790

米国

1-800-674-8375

フリーダイアル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

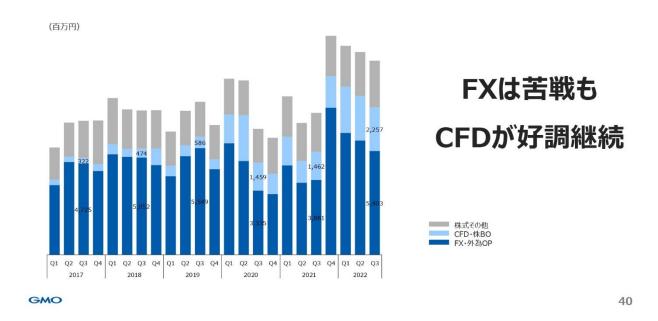


続いて、金融事業です。

四半期業績推移はご覧のとおりです。

外貨 ex byGMO の連結効果や、CFD の好調があり売上は伸長したものの、FX の収益率低下などにより営業利益は微増にとどまりました。

ネット金融|商品別売上高



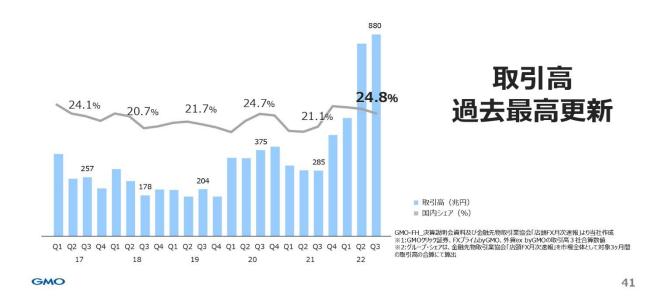
こちらは商品別の売上高の推移です。

濃いブルーの FX は、取引高が増加した一方、カバー取引にかかるコストが増加したことで、収益率が低下し、対前年四半期では弱含みで推移いたしました。

一方、CFD は上半期に続き、コモディティ市場や株価指数の活況を受け、好調に推移いたしました。

米国

ネット金融 | FX事業 取引高・マーケットシェア



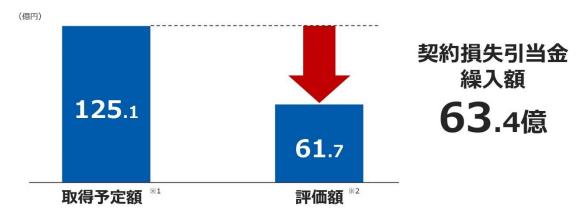
FX 取引高国内シェアの推移です。

取引高については、マーケットのボラティリティ上昇により活況に推移し、過去最高を更新いたし ました。

一方、取引シェアについては減少しております。私どもはリスク管理の観点から、お客様あたりの 取引上限を設けておりますが、今回の活況なマーケットで多くのお客様が取引上限に達したことに よるものです。シェアももちろん重要ですが、引き続き、為替市場の動向を注視しつつ、内部取組 みと収益性の向上を目指してまいります。

ネット銀行|特別損失の計上

黒字化の遅れにより、将来取得予定の株式の評価を引き下げ、差額を特別損失として計上



※1:主要株主認可の取得を前提に、護決権比率を14.9%から50.0%に引き上げるため、あおぞら銀行から株式を取得する際の予定金額
※2:新たに算定した株価による評価額

GMO

43

続いて、GMO あおぞらネット銀行についてです。

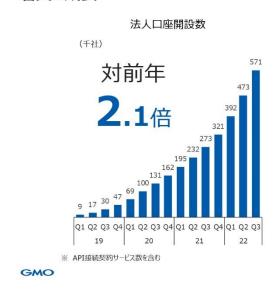
まず、特別損失の計上についてご説明させていただきます。GMO あおぞらネット銀行は、2023 年3 月期通期で黒字化を目指して事業展開しておりましたが、事業計画との乖離が生じたことから、期中において、増資および事業計画の修正を行うこととなりました。

GMO あおぞらネット銀行に対する当社グループのシェアは現状 14.9%ですが、こちらを 50%まで 引き上げる予定でおります。この、将来取得予定の株式の単価について、増資に伴い、新たに算定 した株価を約半分まで評価を引き下げることといたしました。結果、株価の引き下げによる差額を 特別損失として計上することとなりました。

米国

ネット銀行|事業KPIの状況

着実に成長





44

業績面では遅れをとっておりますが、事業 KPI については着実に成長を続けています。法人のお客様に軸足を置いたサービス展開を行った結果、法人口座数はご覧のとおり、順調に拡大しております。次なるメガベンチャーが、当社のお客様から生まれてくることを期待しております。

また、かんたん組込型金融サービスは、デジタル領域で成長を目指す企業様向けに、銀行機能をパーツとしてご提供するサービスです。普及に向けた活動を続けておりまして、現在では組込型金融銀行 API といえば GMO あおぞらネット銀行と言われるほど、認知も高まっており、手応えを感じております。

フリーダイアル

ネット銀行|中長期戦略

3つの柱は変更なし

- 1 スモール&スタートアップ向け銀行 No.1
- 2 組込型金融 No.1
- 3 テックファーストな銀行 No.1

GMO 45

ご覧いただいたとおり、KPIは順調に積み上がっており、リバイスした事業計画でも、三つの柱、 すなわちスモール&スタートアップ向け銀行 No.1、組込型金融 No.1、テックファーストな銀行 No.1というコンセプトに変更はございません。銀行事業においても、引き続きグループー丸とな って、岩盤ストック収益型の収益モデルにフォーカスして、事業展開を行ってまいります。ご期待 ください。

暗号資産事業





GMO

日本 050-5212-7790 米国

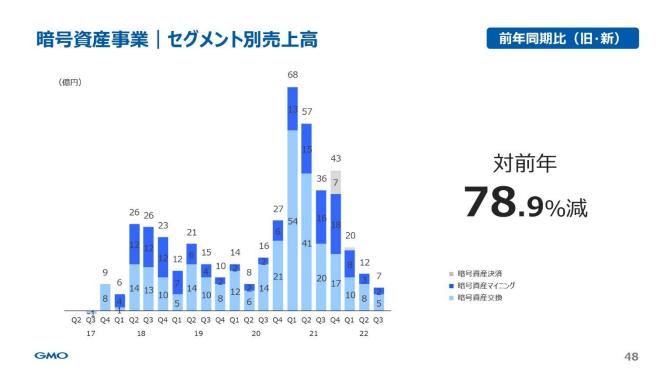
1-800-674-8375





続いて、暗号資産事業です。

暗号資産事業はこちらの三つの事業を展開しております。それぞれマイニング、交換、決済となります。



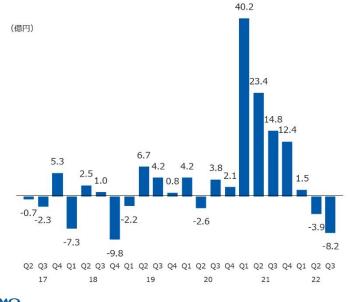
四半期売上高の推移とその内訳です。

交換事業は活況であった前年上期以降、市場全体の取引高が急減したことにより、減収となりました。また、マイニング事業でも、データセンターの稼働率の低下に加え、暗号資産価格やグローバルハッシュレートなどの影響があり、低調に推移しております。

米国

暗号資産事業|営業利益

前年同期比(旧·新)



GMO

こちらは、四半期営業利益の推移です。

交換事業、マイニング事業ともに損失計上となりました。交換事業の GMO コインでは、口座数は 順調に推移しておりますが、取引高の減少が大きく響いている状況です。また、外資の参入によ り、売買代金シェアが少し減っています。こうした状況を鑑みまして、マーケティング投資につい ては、引き続き抑制した形での運用を継続してまいります。各事業の状況は以上となります。

最後にトピックスです。ここからは CFO の安田からご説明申し上げます。

安田:再び安田でございます。それでは、トピックスについて私からご説明をさせていただきま す。

フリーダイアル

米国



日本最強のホワイトハッカー集団

GMO 51

最後に、この1月にグループジョインを発表させていただきました、日本最強のホワイトハッカー 集団、GMO サイバーセキュリティ by イエラエのトピックをご紹介させていただきます。新しいサ ービス、サイトシールの提供を開始いたしました。

新サービス|サイトシール

GMO CYBER SECURITY

掲出イメージ (gmo.jp)



当社の Web サイトを例にいたしました、掲出のイメージです。この左側のロゴですね。こちらは 既に当たり前になっている、GMO グローバルサインによる SSL 認証のシールとなります。SSL 認

サポート

GMO

日本 050-5212-7790 米[

1-800-674-8375

フリーダイアル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



証シールについては、サイトの訪問者に対しまして、セキュリティへの取組みをアピールし、そし てサイトが信頼できることを示すもので、既に1万件以上のサイトでご利用いただいております。

今回の新サービスは、サイバー防衛版のサイトシールとなります。イエラエのホワイトハッカーが 診断を行い、一定水準のレベルにあると判定できたサイトに対して、こちらのシールの掲出を行い ます。

新サービス|サイトシール



「サイバー防衛の象徴」としてデファクトへ



GMO 53

皆様、よくご存知のとおり、このところサイバー攻撃に関するニュースが後を絶ちません。情報流 出のみならず、事業継続を揺るがす事例も増えてきており、サイバー防衛力がより大事になってき ている局面でございます。

こうした事態を受け、企業のサイバー防衛力を格付けするサービスも登場してきています。今般、 このサイトシールを、お客様・お取引先様に安心してお付き合いいただくためのサイバー防衛の象 徴として、新たなデファクトスタンダードを目指してまいります。

また、現在はホワイトハッカーが直接診断を行ったサイトへの掲出のみですが、今後は、現在開発 中の SaaS プロダクトを導入いただいた Web サイトへも掲出することで、安心・安全なビジネス 環境をつくり、日本のサイバー防衛を推し進めてまいります。

新サービス|まとめ



П

技術力 × 岩盤ストック収益

(認証局、ホワイトハッカー)

真似できない商材

GMO 54

最後に、このサイトシールについて、ちょっとまとめをさせていただければと思います。

本日は、冒頭の方で私から当社グループの強みについて、ご説明させていただきました。それは二 つありました。一つは、技術力を自社開発運用に注いでいること。そして、二つ目は岩盤ストック 収益という収益モデルでした。

今回のサイトシールですが、単なるシールではなく、まさに私達の強みを体現したプロダクトだと いうことです。世界展開している認証局と、こういう技術的な強みと優秀なホワイトハッカーとい う技術力を組み合わせることによって実現できる、他社には真似ができない商材です。そして、こ の新しいプロダクトも、他のインフラ商材と同様に、岩盤ストック収益の一部につながっていくと 考えております。改めまして、イエラエとの事業シナジーにどうぞご期待ください。

本日の決算説明会は以上となります。ご視聴いただきまして、ありがとうございました。

全ての人にインターネット。

[了]

脚注

1. 音声が不明瞭な箇所に付いては「音声不明瞭」と記載

サポート

日本 050-5212-7790 1-800-674-8375

米国 フリーダイアル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、 当社は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。さらに、利用者が当社から直接又は間接に 本サービスに関する情報を得た場合であっても、当社は利用者に対し本規約において規定されてい る内容を超えて如何なる保証も行うものではありません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかな る投資商品(価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動してい る投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等)の情報配信・取引・販売促 進・広告宣伝に関連して使用をしてはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的 としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて会員自身の責任で行って いただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者自身が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不 能、変更及び当社による本規約に基づく利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して 会員が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負 わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害の みならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生 的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属しま す。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部 又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布(有料・無料を問いません)、ライセンスの付 与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。